

科目区分	専門教育科目	科目名	レクリエーション技術	科目コード	17F510	担当者	井手口 弘明				
対象学生	介護福祉士コース1年生	学期区分	通年	単位数	2	卒業要件	選択				
						免許・資格要件	レク・インストラクター必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
介護福祉士活動の有力な方法として、福祉の現場ですぐに役立つレクリエーションの技術を身につける。						1. 「 尽心 」 誠実な人柄と人間力	2. 「 創造 」 高度な知性と創造力	3. 「 実践 」 明確な意思と実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 思考・判断力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	長崎県に古くから伝わる歌や遊びを通じて「長崎伝承歌・遊び」を学び、長崎の文化を理解する。										
2.	在宅、施設等でのアクティビティ、環境づくり等を通じた生活の快につながるコミュニケーション・ワークの技								○	○	
3.											
4.											
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						受講態度（40%） 定期試験（60%）					
○身近にあるレク財を活用して、対象者に合わせた創作やアレンジを考えさせる。 ○実習で対象者に合わせたプログラムを作成し、実施・評価を展開させる。											
準備学修						課題等への対応					
○実習ごとに事前訪問して、対象者に合うレクリエーションのプログラムやレク財を検討する。 ○長崎の伝承遊びや歌、昭和の流行歌や唱歌について、日頃から意識して接するように心がける。（準備学習時間20分程度）						社会人学生の意識付けを高めることで、一般学生への相乗効果を図る。					
授業計画											
第1回	福祉レクリエーションの対象者を理解する～対象者の形態～（演習4・6）				第16回	聴覚・言語障害者のコミュニケーション。（音声明瞭度検査、母音による発声（ア行トーク））					
第2回	福祉の視点で考えるレクリエーション①（演習1・2・3・4）				第17回	レクリエーション実施報告会（介護実習1）					
第3回	きっかけ作り・アセスメントシート コミュニケーションのきっかけ作りを学ぶ				第18回	障害児（者）対応レクリエーション（紙芝居でレクリエーションを楽しむ）					
第4回	福祉の視点で考えるレクリエーション② （相手を理解する伝達力：図画、絵）				第19回	パネルシアター（世界は二人のために、桃太郎、さる・かに合戦、水戸黄門、貧乏神と福の神）					
第5回	ホスピタリティ・アイスブレーキング・音楽療法・回想法とは、高齢者教室				第20回	パネルシアター（発表）					
第6回	すぐに役立つレクリエーション（長崎じげ言葉、虫食いパネル、巻いて巻いて、ゴミ掃除競争）				第21回	認知症高齢者と楽しむ懐かしの唱歌や童謡②					
第7回	長崎伝承歌遊び① 演習（長崎のわらべ唄、鉄道唱歌）				第22回	介護実習2 レクリエーション計画書作成（介護老人保健施設・障害者施設）					
第8回	長崎伝承歌遊び② 演習（長崎の流行歌・時代を巡る歌）				第23回	高齢者教室（健康体操とゲーム遊び）					
第9回	手作りメッセージ（ラミネート加工）				第24回	クリスマス、誕生日へのメッセージカード作り（ラミネート加工）					
第10回	相互作用の活用（塗り絵から学ぶ唱歌）				第25回	レクリエーション実施報告会（介護実習2）					
第11回	アクティビティの展開方法（高齢者の健康教室：魚を開きましよ、十五夜さんの餅つき、季節の行事）				第26回	長崎伝承遊び② 演習（長崎丸ごとビンゴ・都道府県ビンゴ・県名さがし）					
第12回	長崎伝承遊び① 演習（お手玉遊び、ビュンビュンこま）				第27回	個別レクリエーション援助のためのアセスメントシートの記入					
第13回	回想法（カルタ遊び）				第28回	個人への直接レクリエーション援助プログラムの作成					
第14回	認知症高齢者と楽しむ懐かしの唱歌や童謡①				第29回	個人への直接レクリエーション援助プログラムの演習					
第15回	介護実習Ⅰ レクリエーション計画書作成（在宅訪問、特別養護老人ホーム）				第30回	総括：個人への直接レクリエーション援助展開の発表（期末テスト）					
教科書・参考書						受講生へのメッセージ					
・レクリエーション支援の基礎 ・福祉レクリエーション講座						レクリエーションを展開する上で、ICF（国際生活機能分類）を視点において考え、人間はどのように生きていくのかだけでなく「私たちはどのような生活を望んでいるのか」といった部分を根本的に目を向けていく必要があります。					